

～ 大人の方へ ～

このお話は私が想像した運命のメッセージと春花が誕生した時のお話を物語りにしたものでです。

おかげさまで春花の心臓の穴は1才の時にふさがりました。

赤ちゃんの頃から春花と一緒に保育園に通っていたお友達もいつの頃からか

“春ちゃんはみんなと違う”と言う疑問を持ち始めたようで、仲良しであればあるほど、「どうして春ちゃんはちゃんとお話出来ないの？」と何人もの子が私に尋ねるようになりました。

一人一人には「ゆっくりだけど、ちょっとずつ話せるようになるから、もし春ちゃんが困っていたら助けてあげてね！」と言って来ましたが、保育園の先生から良いチャンスを頂いたので小さな子供たちにもわかるような“紙芝居”にして聞いてもらおうと思い一晩で書き上げたものです。

それが「神さまからの贈りもの」の物語りが出来たきっかけです。

本当は“ダウン症”は、病気とはちょっと違うのですが、このお話の中では子供たちにわかりやすく説明するために“病気”と言う言葉を使いました。

～説明すれば、子供は子供なりに、きちんと理解する力を持ってています～

この紙芝居を同じクラスの6才の子供たちに見てもらった後、クラスの子供たちの心の中のモヤモヤとした疑問がスッキリ晴れたかのように、急にみんなが“春ちゃんのお世話をしなくちゃ！”・・・とみんなお兄さんやお姉さんのようになってくれた事を今も思い出します。

保育園に通っていた年中さんのある日の事です。

私のいる目の前で春花にこんな事を言って来た2人の男の子たちがいました。

「気持ち悪い！お前なんか養護学校へ行っちゃえばいいんだ！」・・・と。

この子たちに、こう言わせてしまう“社会”がある事もひとつの“現実”なんだと、改めて考えさせられ、大変心が痛みました。

なぜ“養護学校”と言うものがあるのか、そこには どんな子供たちが通っているのか・・・きちんと説明してあげられる大人は 一体どの位いるのでしょうか？壁の向こうにどんな子供たちがいるのでしょうか？

大変恥ずかしい話ですが、私も“障がい児の親”になるまでは、あまり深く考えた事はありませんでした。よく、知らなかつたのです。

その出来事の数日後、そのうちの一人のお母様から突然、お電話を頂きました。
その子が自分でお母さんに打ち明けてくれたそうです。
私は、そのお母様が… “わざわざお電話を下さった事”、そして、その男の子が自分から打ち明けてくれた事の “勇気”、そして そのように子供を導いて下さった “保育園の先生方のご指導” に対し、とても感激し、感謝の気持ちで一杯になりました。

「障がい」とは不便な時もあるけれど「不幸」な事ではないのです。
それによってとても大切な事が見えてくるのです。
「障がい」という高い山から見た世界は、なんて色鮮やかで、なんて深い景色なんだろう…
と私は自分の運命に喜びを感じます。

まだまだ本当の意味の “バリアフリー” は難しい社会です。
“バリアフリー”とは、お互いの間に壁がない事、相手の事を理解しようとする “温かい 気持ち” ではないでしょうか…
でもまず、自分のまわりから、少しずつ、“心のバリアフリー” が広がるよう努力したいと思います。

600 人に一人で生まれてくるダウントン症の子供たちは、その原因が何なのか、未だに医学的にも、はっきりわかつていません。
でもきっと、神様が、人間たちが優しくなれるように、このような天使たちを、選ばれた親たちに授けて下さったのだと、私は信じています。神様から選ばれてこのような子供を授かった事を 本当に “誇り” に思っています。

娘 “春花” が、ある日突然 こんな事を私に言いました。

「春ちゃんはママの歌！」…と。

春花が、なぜ突然こんな事を私に言ったのかは わかりません…。
でも やはり、この子は神様が私に下さった “贈りもの” だと思いました。

“生きるすばらしさ、楽しさ” を人一倍感じている私です。
～それを いつも笑顔で教えてくれるのは、娘の “春花” です～